

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

社団法人 **電池工業会**

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価 1部郵送による年決め2,400円

平成16年1月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN



2004年 年頭所感

謹んで新春のお慶び申し上げます。

平成16年の新春を迎えるにあたりご挨拶申し上げます。

.....

昨年度の日本経済は景気の底入れが言われ緩やかですが個人消費も堅調に推移して参りました。しかしながら依然として内外を取り巻く不透明感は拭えずイラク情勢の混迷や円高、更にアメリカ経済等の先行き懸念など今年は厳しい状況でのスタートになりそうです。

このような状況におきまして電池業界は相変わらず厳しい状況にあります。

暦年2003年の総出荷個数は65億個、前年比97%、総出荷金額は6,934億円、前年比99.9%となる見通しであります。

商品別に見てみますと、鉛蓄電池では個数で95%、金額で93%と下回る見込みです、中でも自動車用電池が冷夏、暖冬、価格下落などの影響で金額90%と大きく下回りそうです。



社団法人電池工業会 会長 田中 千秋

民生用小形二次電池は引き続きリチウムイオン電池がカメラつき携帯電話やデジカメが堅調に推移していることから好調で、数量は131%、金額では118%になりますが、ニカド電池、ニッケル水素電池とも前年を大きく割り込みます。

二次電池全体では数量96%、金額102%となる見込みであります。

一方、一次電池は数量で97%、金額で94%となる見込みで、引き続き単価下落が進んでおります。

全体に見ますと数量では何とか前年並で推移しそうですが、金額においては下回わる大変厳しい状況になっており、今後は価格下落の傾向が更に進むものと思われます。

さて、市況を見るとなかなか好材料は見つかりませんが電池工業会としては次の点について積極的に事業展開をはかる所存でございます。

.....

第一に「環境対応に関する活動」です。

環境に対する取り組みは最も重要な活動と考えております。本年から施行される「自動車リサイクル法」に向けリサイクル特別プロジェクトチームが回収・再資源について関連官庁、団体と積極的に対応してまいり、円滑な運用方法について検討してまいります。本件に就きましては最重点課題として取り組んでまいりたいと思います。

また「改正リサイクル法」の制定から3年経った小形二次電池の回収は小形二次電池再資源化推進センターの積極的な活動により会員組織の拡大や、回収量の伸長など目覚ましい成果が出てまいりました。引き続き電池、機器メーカーの共同事業として展開を推進して参ります。

.....

第二に「広報活動に関する活動」です。

電池が我々の日常生活にますます深くかかわってまいりましたが「電池の正しい使い方」、「電池の上手な使い方」、「使用済み電池の処理の仕方」などまだまだ正しく理解されていないのが実情であります。そのため思わぬ事故やクレームが

発生しております。一般の方にもっと電池のことを理解・認識していただくため本年も「電池月間」を中心に広報活動を取り組んでまいります。

参加型のイベントとしての「でんちフェスタ」や年末の恒例行事として定着してまいりました「プロ野球バッテリー表彰」、また小形二次電池の回収リサイクルを目的としたリサイクルキャンペーン、液面点検やリサイクル方法をPRする各種の展示会など盛りだくさんの企画を提案していきたいと考えております。

.....

第三に「国際交流に関する活動」です。

グローバル化に伴いアジア、欧米等と環境問題や標準化について深く交流してまいります。特に中国との関係は日本からの生産シフトが進む中で、環境問題については重点的に取り組んでまいりたいと思います。一方欧米とは共通課題が山積しておりますが環境をはじめリチウム電池の標準化など双方で力を結集し諸問題に対応してまいります。また、安全性やPLに関する国際取り決めなども行い、連携を深めてまいります。その他IECでの標準化の活動も海外関連機関と連携を強化し積極的に取り組んでまいります。

.....

目覚ましいスピードで変化している情報社会の中で電池はなくてはならない存在です。同時に現代社会に対する責務はますます大きなものになってまいりました。技術革新はもちろん、環境対応性、安全性など多岐にわたり明確な対応が求められます。グローバル化への対応、業界再編制など取り巻く環境は大変厳しい状況になってきておりますが、1兆円業界への再チャレンジを目指し、会員各社と関係省庁並びに関係各位のご支援、ご指導をお願いすると共に、皆様方のご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

経済産業省 商務情報政策局長
豊田 正和



平成16年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

我が国経済は、企業収益の改善や設備投資の回復など徐々に明るい動きが見えつつあります。中でも、IT産業は21世紀の日本経済の牽引役として大きな期待を担っております。商務情報政策局としては、高度なIT利活用の促進やサービス経済化を担う雇用吸収力の大きいサービス産業の振興を通じて、日本経済回復の加速化に貢献してまいりたいと、新年を迎え、決意を新たにしているところであります。

近年のITを取り巻く状況を振り返ってみますと、2001年の「e-Japan戦略」後の3年間の間に大きく変化しました。光ファイバーやADSLなどの高速インターネットへの加入者数が22万から1200万となり、月額利用料金が世界で最も安い水準になるなど、急速にITインフラの整備が進みました。国の申請・届出等手続の大部分がオンライン化され、全公立学校へのインターネット接続が可能となるなどIT分野が構造改革を進める大きな役割を担ってきているともいえます。

しかし、実利用の面に目を向けると、電子政府の評価は世界18位にとどまり、生産性の向上への貢献も先進国中で低水準に位置するなど、効果の見えるIT活用が進んでいるとは必ずしも言えません。このため、今後は政策の軸足をインフラ整備から、ユーザーの視点に立った利活用の強化に移していくこととしております。具体的には、昨年夏に決定された「e-Japan戦略Ⅱ」に基づき、国民の方々にとって身近な分野に重点を置きつつ、情報家電の普及、電子タグの活用によるトレーサビリティシステムの実現、業務改革と一体化した世界最高水準の電子政府の構築などの施策に取り組んでまいります。

さらに、IT活用を充実、強化するための社会基盤の整備として、高信頼性社会の構築につながるセキュリティ対策の強化、ハードウェア、ソフトウェア分野における先端的な研究開発の推進、スキル標準をとりいれた高度IT人材の育成などに取り組んでまいります。

こうした取組を通じ2005年に世界最先端のIT国家となるという目標を実現するとともに、2006年以降も世界最先端であり続けることを目指してまいります。

一方、サービス産業については、現在、国民の価値観の多様化などにより、サービス産業比率の拡大と製造業の中のサービス部門の拡大というサービス経済化が進展しております。また、消費の段階で新しい価値が創造される時代においては、多種多様かつ大量の雇用を創出するサービス産業の強靱化を図り、製造業と車の両輪として我が国経済を支えていくことが重要と考えております。

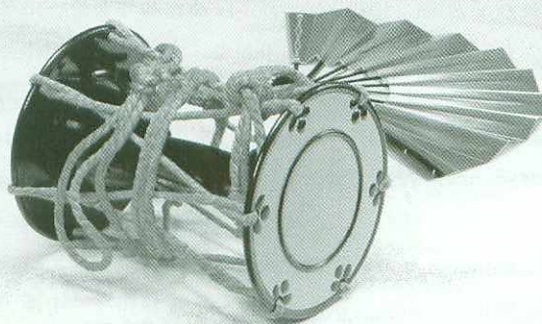
そこで、サービス産業の新たな創造と強靱化に向けて、以下のような施策に取り組んでまいります。

第一に、個別産業の振興策として、少子高齢化の進展や国民ニーズの変化により、潜在的に大きな需要が見込まれる健康福祉分野や国際競争力の向上が期待されるコンテンツ分野などの振興について重点的に取り組んでまいります。具体的には、新たな健康サービス提供を行う事業構築プロジェクトを先駆例としたモデル事業等を通じて、総合的な健康サービス産業の創造に取り組んでまいります。また、東京国際映画祭の開催時における国際取引市場の新設及び海賊版対策の抜本的強化等、コンテンツ産業の活性化に向けて一層の努力をしてまいります。

第二に、産業横断的な振興策として、サービス業の特性に合致した経営手法であるサービス業フランチャイズの振興、経理財務スキルを客観的に把握する方法を普及させるための経理財務分野専門人材育成事業、介護、子育てや生涯学習などの分野で、女性やシニアが中心となっていく市民活動及びこれらの企業化を支援する市民ベンチャー事業等に取り組んでまいります。

情報産業、サービス産業は21世紀を担う産業です。両産業における産業競争力の強化と新産業・雇用の創造を通じて、我が国経済を本格的な成長軌道にのせるべく今後とも商務情報政策の推進に全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、平成16年が皆様にとりまして、一層の飛躍の年となりますよう心から祈念いたしまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。



蓄電池設備整備資格者

講習修了考查合格者(東京・神奈川会場分)

電池工業会は、11月25・26日東京都で、12月3・4日神奈川県で開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考查に合格した者の氏名を発表した。

合格者(合格率)は、東京179名(78.9%)、神奈川106名(88.3%)合格通知は直接本人に通知される。

東京都

小川大志、村木孝行、佐藤和男、桜井正美、金成昭芳、森合重智、今津喜久夫、山内清秀、有賀正敏、鈴木健三、秋山 茂、佐藤 隆、柳澤賢一郎、小野沢新一、石川健治、辻 理、雨宮宏樹、小堀浩光、小倉靖彦、石橋昇策、堀口雄二、河西 優、藪田火峰、松島敏雄、石田靖仁、竹内英敏、堤 勝也、石渡 剛、小室暢孝、花田 剛、新明弘朗、津田修吾、浅野秀明、鈴木裕二、谷見晃広、松本 豊、森 宏明、浦野雅宏、岡田順司、遠藤慎一、佐々木 修、河野雅記、鹿野 晃、秋山和也、後口慎司、矢島慎也、柳田義夫、金井喜久夫、笹谷聡司、矢野博文、清水 格、赤坂 仁、中村 譲、古川正敏、岡村吉規、奥蘭達雄、伊藤隆則、渡辺文雄、土井雅則、神山清志、大内 悟、内之浦 徹、山口義夫、平野尚作、渡邊正博、三浦公也、山縣哲弥、大島 仁、岸田康治、原島隆司、江原健一、神田弘之、新実昭雄、鈴木敬示、黒瀬力造、平野秀平、有坂英次、狩野正孝、宇田川光男、加藤成久、湯本哲夫、河村信之、石川聡之、岡部順一、城定 毅、中尾健児、印南 守、倉持哲也、高橋明良、石川 稔、玉井洋輔、進藤利美、高橋知之、五十嵐俊介、小森紀良、清水敬一郎、濱田賢一、佐藤哲也、鈴木清一、春田義弘、谷口直樹、布谷喜之、鈴木俊一郎、野元信一郎、住吉正雄、上村文雄、木村昭雄、三上輝和、齊藤広一、西川勝行、米良 勉、永井利治、南谷直樹、福島康徳、山田宏幸、高崎 保、鈴木 誠、町田幸隆、利光和明、大瀬俊廣、山口和之、今井敏貴、谷口 優、田部井 孝、斉藤光司、増田健太、稲津京二、廣瀬清幸、石橋啓一郎、柳本正和、白倉博文、末廣健司、稲生 敬、豊田則重、秋元 浩、神田晴夫、加藤克巳、清水一憲、阿部裕治、神澤 巖、秦 豊治、堀越博幸、須賀一男、林 公二、小野洋平、表 直樹、御園生幸広、知公正男、小松俊一、柴田裕之、坂本義則、高橋 勉、篠原健一、脇岡祥司、須藤 悟、五十嵐晃仁、足立和之、岸田雅之、渡邊英世、森 健、蔵根 尚、秋山晋也、秋山道義、金子則之、神山文男、筑比地尊人、坂 昭彦、中沼孝寿、八木 寛、屋代明彦、飯田芳久、高橋 涉、中曾根浩二、榎村修平、田中友和、大澤利文、松原匡孝、涌嶋洋一、小ノ瀬英明。

神奈川県

草野潤一、岩橋英雄、荒木雄二、井上賢一、北住 功、坂上健一、佐野規一郎、柴田守泰、小池真一、久保勝行、片山卓郎、緒方賢治、伊藤昌晃、板倉陽一、谷内 誠、溜口裕也、三津間 宏、藪口 実、中嶋登志信、田島利昭、岩出浩孝、吉田康二、佐藤慶三、新井 学、柴田俊介、川喜多俊秀、河内英樹、川嶋智宏、務臺幸男、齋藤真一、長谷部光俊、土田尋行、鈴木隆重、高井廣栄、中村 誠、戸水正樹、長谷川 孝、北村吉紀、秋山信浩、鈴木豊治、佐野 満、秋元常雄、山下和也、大藤浩一、梅津英之、小川佳春、井上 功、田中秀一、増田文彦、八巻利文、小島淳弘、小林久洋、木村憲一、芳賀 誠、安田清美、山家 智、飯山裕紀、松村侯男、猪原 修、飯島知規、藤田浩岐、堀之内一馬、村下明弘、永沢 恒、五十嵐清公、小林桂一、鈴木貴晴、平林勇治、平良 剛、重城康太、岩澤 洋、吉成 剛、金澤春人、渋谷智彦、羽田浩央、佐々木克巳、堀 岳史、新井 努、森岡 功、成田将展、須藤雄司、樋口博幸、阿部 久、及川裕之、西村 彬、車 章夫、高山照浩、入水隆志、神明信佑、堀田 孝、北村正伸、有澤悠季、安德裕幸、大石陽介、黒崎達也、加納泰視、割石茂仁、井出精一、長谷川 恒、笠原順一、小林正三、田村直樹、河野健二、永井利彦、田中 亘、井上浩司。

業界動向

《電池・燃料電池・太陽電池》

***日本電池** 関西電力と共同でリチウムイオン電池に比べ容量が1.8倍で製造コストが約五分の一の新型二次電池を開発した。HEV等を対象に二、三年の内の実用化を目指す。
(11月3日付 日経)

***富士電機** 2004年内に家庭用の定置型FCの実証実験を開始する。FCは1kWの固体高分子型FC。
(11月5日付 日経産業)

***三菱電機** 世界的に需要が拡大中の太陽光発電システム事業を加速、早期に100MW体制を確立へ。(11月5日付 電波)

***パナソニックEVエナジー** 2006年にもHEV向けニッケル水素電池パックの生産能力を年間50万台体制に増強、トヨタ以外にも拡販へ。
(11月13日付 日刊工業)

***日産自動車** FC車の発達・加速時等に使う補助電源用の薄型リチウムイオン電池を開発、近々発売のFC車に採用する。
(11月19日付 日経)

***三菱重工業** アモルファスシリコンと微結晶シリコンを一体化したタンデム型太陽電池の生産に乗り出す。発電効率は12%。
(11月27日付 日刊工業)

《商品・技術・材料》

***カメラ映像機器工業会(CIPA)** 今年1—9月のDSCの世界出荷が前年同期比81%増の高い伸びになり、台数は2,842万台になった。
(11月1日付 日経)

***JDパワー&アソシエイツ[米]** 2008年の米国でのHEVの市場規模を当初予測の50万台から35万台に下方修正した。
(10月31日付 日経タ刊)

***アルプス電気** 自動車のタイヤ空気圧を監視する電池不要のシステムを開発した。
(11月5日付 日経産業)

***東洋ラジエーター** 天然ガスから水素を取り出す家庭用FC向けの改質器を開発。
(11月7日付 日経産業)

***GM[米]** HEVの発売を2005年から2007年に延期する旨を発表。FC車に重点投資へ。
(11月7日付 日経)

***電子部品、電子材料業界** 鉛フリー対応の電子部品、電子材料のラベル表示方法について、業界標準化を進めることを決定。
(11月11日付 電波)

***オートモーティブ・ニュース(米・自動車専門週刊誌)** 現代自動車(韓国)がHEVを2006年までに米国に投入する計画である旨を記載。
(11月12日付 日刊工業)

***NTTドコモ&インテル** 次世代携帯電話に使う高性能半導体を共同開発、世界標準の獲得を狙う。(11月15日付 日経)

***鳥取大学工学部** 木炭製造業の錦生燃料社と共同で、おがくずを原料とする新素材の木炭、空気電池の正極材料に応用する技術の開発に成功した。
(11月18日付 日刊工業)

***三菱重工業** 都市部を巡回しながらFC車用ステーションに水素を供給する移動式の水素製造装置を開発した。
(11月21日付 日刊工業)

***日米欧15カ国&欧州委員会** 水素エネルギーを利用する新たな経済システムの実現を目指し、国際協力を推進することで合意、FC等の国際標準作りを進める。
(11月21日付 日経)

***財務省** 住宅用の太陽光発電装置の購入者に対する補助金制度を2005年度末で打ち切る方針を固めた。
(11月26日付 日経)

***旭化成エレクトロニクス&KRI** 新しい蓄電素子を開発した。エネルギー容量はキャパシタの3—5倍大きい。
(11月27日付 日経産業)

***三洋電機** ニッケル水素電池の超高容量化を可能とする超格子合金の開発、実用化成功した。電池容量の10%以上アップが可能。(11月28日付 化学工業日報、日経、日経産業、電波、日刊工業)

《環境》

***日韓欧24社・団体** 鉛フリーはんだの環境影響評価を共同で実施、生体や自然環境にどのような負荷を与えるかを調査する。
(11月14日付 日経)

***小形二次電池再資源化推進センター** 回収拠点をデータベース化し回収管理システムを完成させたのに続き、会員管理システムを導入、回収管理全般を充実させる。
(11月25日付 化学工業日報)

***欧州連合** 欧州委員会は域内で販売される全ての電池の回収とリサイクルを義務付ける指令案を発表した。
(11月27日付 化学工業日報)

《予測・統計》

***電子情報技術産業協会(JEITA)** 携帯電話(携帯電話・PHS・自動車電話)の国内出荷実績が、2003年上期が前年度同期比27.9%増の2673万4千台になり、上半期としては過去最高を記録した。
(11月12日付 日刊工業)

***リチウムイオン電池** 2003年の本電池の出荷が、携帯電話のカラー化等が追い風になり過去最高の7億3千万台が確実になりそう。
(11月18日付 化学工業日報)

***情報通信ネットワーク産業協会(CIJA)** 2008年度までの通信機器中期需要予測を公表。2003年度は前年度比5.4%増加し3年ぶりにプラス成長に戻ると共に2年ぶりに4兆円を回復すると予測。(11月27日付 電波)

《その他》

***財務省** 模倣品など知的財産権を侵害する物品の取り締まり強化のため、中国の税関当局と意見交換を予定。
(11月4日付 日経)

***電池工業会** 電池月間の開始行事として、電池に対する正しい理解の促進等を目的にした「でんちフェスタ」を池袋・サンシャインシティで開催した。
(11月11日付 電波)

***公正取引委員会** YUASAと日本電池が予定している経営統合について、独禁法に違反する恐れはないと発表した。
(11月8日付 日経)

***カシオ計算機&日立製作所** 携帯電話の開発、設計、資材調達の各部門を統合する共同出資会社を設立する。2004年4月の事業開始を目指す。
(11月19日付 日経)

平成15年12月度の電池工業会活動概要

部会	12月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議	3日(水)	2003プロ野球最優秀バッテリー賞	セパ両リーグ関係者の参加の元東京プリンスホテルで盛大に開催した
	16日(火)	EU電池指令草案の説明会	草案の背景や内容を紹介。今後の課題等について意見交換を実施
	19日(金)	欧州と中国の電池規制説明会(日機輪委員会)	EU指令の動向と中国の新技術施策を紹介
	19日(金)	広報委員会	バッテリー賞、でんちフェスタ等の活動結果の報告と反省内容の確認
二次電池部会	2日(月)	電気車用電池小委員会	電気車用電池新リサイクルスキームの審議
	3日(火)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキームの審議
	4日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	4日(木)	資材委員会・(自)リサイクル特別委員会合同	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	5日(金)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	5日(金)	用語分科会	SBA「規格票作成指針」制定案の最終確認
	5日(金)	二次電池PL委員会	03年度上期破裂事故集計結果の国土交通省への報告
	9日(火)	電源システム標準化委員会	JIS(ベント形据置鉛蓄電池)1件、SBA2件の審議
	10日(水)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	11日(木)	(自)リサイクル特別委員会	自動車電池(二輪含む)新リサイクルスキーム審議
	11日(木)	自動車鉛分科会	JIS(D5301始動用鉛蓄電池)改正案
	15日(月)	(自)需要予測小委員会	10,11月度実績の確認
	17日(水)	資材小委員会	情報交換、来年の計画
	17日(水)	二次電池リサイクル(委)拡大事務局会議	産業用電池新リサイクルスキームの審議
	17日(水)	(自)技術サービス小委員会	自動車用電池総合診断パンフレットの内容及び構成
	18日(木)	(自)市販小委員会	販売店での回収状況について。リサイクル協力店名簿について
	18日(木)	据置鉛分科会	H16年度改正JIS(C8704-2制御弁式)の内容及び構成
	18日(木)	電気車鉛分科会	SBA改正案標準化委員会指摘事項の回答内容
	22日(月)	産業電池技術サービス分科会	電源装置の寿命更新に関するパンフレット作成、他
小形二次電池部会	4日(木)	PL委員会	家電PLセンターの取り組みに関する勉強会を実施
	9日(火)	小形二次電池部会	各委員会の活動内容報告、及び新たな電池指令案、中号法令の説明
	11日(木)	国連対応WG会議	ICAO/DGP19における国土交通省の出席報告
	12,13日	再資源化委員会アルカリ分科会	リサイクラー工場見学及びPRTRの活用検討及び廃棄フローの検討
	15日(月)	第30回国連対応委員会	米国49の進捗確認及び海上輸送規則等の対応
	16日(火)	再資源化委員会リチウムイオン分科会	次年度の計画検討
	17日(水)	リチウム2次分科会	JIS原案(C8711改正、小形二次電池の安全性制定)作成審議
	18日(木)	再資源化委員会	新EU電池指令案についての課題検討及び今後の取組について検討
	19日(金)	ニカド・ニッケル水素分科会	JIS原案(C8705改正、小形二次電池の機械的試験制定)作成審議
	19日(金)	新種電池研究会	活動内容・情報等の意見交換、今後の運営方針について審議
	24日(水)	業務委員会	10月度販売状況の検討及び統計資料に関する課題の整理等の審議
	2日(火)	循環技術委員会	平成16年度の活動と予算の考え方・次回会議の内容
	3日(水)	一次電池技術委員会	一次電池課題テーマの審議
一次電池部会	3日(水)	環境対応委員会	平成16年度の活動と予算の考え方、乾電池埋立て実験費用の平準化
	4日(木)	合同PL委員会家	家電製品PLセンターと中古家電のPL事故を中心とした意見交換
	5日(金)	JIS小委員会	JIS「一次電池通則」改正審議
	5日(金)	IEC小委員会/リチウムWG	IEC規格案件(MT14,MT15,MT16)の審議、最終原案に対する日本コメント案
	12日(金)	一次電池業務委員会	ボタン電池回収箱の改善とこれの啓蒙資料の検討、及び需要予測
	17日(水)	器具委員会	電池器具安全確保のための表示に関するガイドブックの見直し等
	18日(木)	一次電池課題検討連絡会	ボタン電池回収箱の安全対応、積層電池とコイン電池の短絡対策等の検討

●●●●● 新製品ニュース ●●●●●

バス向けバッテリー 「BPシリーズ」に1機種を追加発売

日本電池株式会社(社長:村上 晨一郎)は、このたびバス向けバッテリー「BPシリーズ」に新たに1形式を追加、発売いたします。

BPシリーズは、アイドリングストップや高温連続使用などバス特有の厳しい使用環境に配慮した最適設計の高性能バッテリーとして1998年3月の発売以来、ご好評をいただいております。

昨今、今後進んでいく高齢化社会に配慮したバリアフリー化が推進されており、バスも高齢者や障害者をはじめ、誰にでも乗り降りしやすいノンステップバスやワンステップバスのような低底バスが増えております。低底バスはバスの出入り口の床を低くしたバスのことで、床が低いためバッテリーの搭載場所が狭くなっています。また、都市部以外での普及も期待されていることから、車体の長さを短くした中型・小型タイプへシフトしつつあります。バス向けバッテリーについても、狭いスペースに搭載できて、より高性能なバッテリーへのニーズが高まってきており、これらのニーズに対応すべく、今回は低底バスに主に搭載されているG51サイズを追加発売させていただくことになりました。G51サイズは、従来のBPシリーズと同様にハードペーストを採用するなどバスに最適な製品設計を施すことで寿命耐久性を向上させ、当社従来品比で1.4倍の長寿命(40℃重負荷寿命試験)を実現することができました。

— 特 長 —

1. 長寿命化

最適グリッドの採用やハードペースト(鉛粉)、ペースト(鉛粉)量の増量により長寿命化を実現した。

2. メンテナンスフリー性能の向上

ハイブリッド極板構成を採用することにより、液減りや自己放電がしにくい高いメンテナンスフリー性能を実現した。

3. 信頼性の向上

COS方式による極板接続に加え、接続部にHR特殊合金を採用、信頼性が大幅に向上した。



10月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成15年10月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	561,180	63,603	96%	101%	5,047,527	575,721	98%	101%
全電池合計	560,253	62,277	96%	101%	5,038,796	563,191	98%	102%
一次電池計	408,202	13,791	96%	92%	3,698,850	122,295	97%	92%
マンガン乾電池計	79,081	1,523	79%	78%	763,036	14,178	83%	78%
単一	10,683	487	94%	85%	86,200	4,092	87%	81%
単三	36,608	522	79%	74%	375,822	5,299	80%	75%
その他	31,790	514	75%	77%	301,014	4,787	87%	79%
アルカリ乾電池計	126,249	6,603	103%	101%	1,117,221	56,770	103%	98%
単三	76,607	3,342	99%	96%	714,731	31,082	104%	99%
単四	26,518	1,214	102%	95%	230,841	10,639	99%	94%
その他	23,124	2,047	115%	115%	171,649	15,049	102%	98%
酸化銀電池	87,495	941	104%	99%	836,497	9,005	102%	99%
リチウム電池	110,146	4,510	99%	87%	927,841	39,996	103%	89%
その他の乾電池	5,231	214	71%	75%	54,255	2,346	82%	80%
二次電池計	152,051	48,486	96%	104%	1,339,946	440,896	98%	105%
鉛電池計	3,375	10,332	105%	98%	32,080	105,992	95%	95%
自動車用	2,147	6,198	104%	91%	19,661	58,921	101%	93%
二輪用	337	675	97%	101%	3,592	7,294	94%	99%
小形シール	698	813	113%	118%	6,765	7,958	83%	93%
その他	193	2,646	103%	113%	2,062	31,819	96%	98%
アルカリ電池計	69,319	8,388	73%	73%	671,937	82,036	77%	78%
完全密閉式	34,268	3,603	80%	67%	341,214	37,889	82%	79%
ニッケル水素	35,040	4,601	68%	78%	330,428	41,559	72%	78%
その他のアルカリ電池	11	184	25%	67%	295	2,588	92%	69%
リチウムイオン電池	79,357	29,766	131%	121%	635,929	252,868	140%	124%
器具計	927	1,326	108%	95%	8,731	12,530	101%	90%
携帯電灯	459	370	98%	84%	4,863	3,984	104%	84%
電池器具	468	956	120%	100%	3,868	8,546	97%	92%

10月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成15年10月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	302,991	33,569	95%	98%	2,736,218	296,180	97%	103%
一次電池計	168,392	3,090	96%	85%	1,603,417	30,748	99%	89%
マンガン	42,180	366	75%	73%	450,692	3,756	87%	76%
アルカリ	29,057	506	185%	144%	224,226	4,311	140%	128%
酸化銀	33,027	382	94%	90%	326,014	3,898	93%	92%
リチウム	61,237	1,773	93%	77%	580,432	18,208	102%	86%
空気亜鉛	2,238	35	88%	78%	16,565	291	74%	63%
その他の一次	654	28	358%	189%	5,488	284	158%	123%
二次電池計	134,599	30,479	94%	99%	1,132,801	265,433	95%	105%
鉛蓄電池	268	588	84%	95%	3,037	6,282	79%	90%
ニカド	27,923	2,321	77%	63%	284,684	24,989	81%	77%
ニッケル鉄	19	4	-	-	36	13	69%	79%
ニッケル水素	22,604	2,421	57%	65%	232,657	23,978	67%	70%
リチウムイオン	65,548	21,597	120%	106%	491,765	179,132	129%	112%
その他の二次	18,236	3,548	143%	158%	120,622	31,038	110%	156%
全電池合計(輸 入)	74,169	6,070	115%	115%	559,148	47,629	126%	123%
一次電池計	69,042	2,209	115%	84%	518,251	15,824	127%	112%
マンガン	16,854	211	151%	129%	118,293	1,472	132%	117%
アルカリ	46,100	870	107%	96%	352,432	6,466	124%	111%
酸化銀	212	5	581%	248%	1,275	30	47%	52%
リチウム	1,584	296	84%	196%	14,187	1,941	90%	145%
空気亜鉛	551	15	136%	120%	5,106	148	155%	114%
その他の一次	3,742	811	109%	58%	26,959	5,767	197%	104%
二次電池計	5,127	3,861	119%	146%	40,897	31,805	124%	130%
鉛蓄電池	694	1,611	138%	116%	5,634	14,290	118%	115%
ニカド	1,785	437	121%	139%	14,576	3,464	115%	89%
ニッケル鉄	15	35	>>>	>>>	117	237	3399%	3052%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	2,632	1,777	113%	189%	20,570	13,815	131%	169%